

今月のみことば 2026年2月

あなたの指のわざであるあなたの天、あなたが整えられた月や星を見るに、人とは何ものなのでしょう。あなたが心に留められるとは。人の子とはいったい何ものなのでしょう。あなたが顧みてくださるとは。(詩篇8篇3～4節)

創造主が命をかけて下さった不思議

今年の冬も厳しい寒さが続いています。澄んだ空気のおかげで、夜の星空が驚くほど美しく見える季節を迎えています。吐く息も白くなるような寒い夜、ふと立ち止まって空を見上げると、自分の小ささと、宇宙の大きさを感じずにはいられません。古代イスラエルの王ダビデも、同じように星空を見上げて、こう歌いました。

「あなたの指のわざであるあなたの天、あなたが整えられた月や星を見るに、人とは何ものなのでしょう。あなたが心に留められるとは。人の子とはいったい何ものなのでしょう。あなたが顧みてくださるとは。」

聖書が語る神は、この広大な宇宙を創造されたお方、その指で月や星を据えられたお方です。そのような偉大な創造主が、なぜ、ちっぽけな人間のことを「心に留められる」のでしょうか。

地球は、広い宇宙の中でほんの一粒の砂のようなものです。その地球上の私たち一人ひとりは、もっと小さな存在です。しかも、人生はあっという間に過ぎ去っていきます。何十億年も輝き続ける星々と比べれば、私たちは本当に取るに足らない存在なのです。それなのに、創造主である神は、私たちを「心に留められる」。そして、「顧みてくださる」というのです。

この不思議は、さらに深まります。神は、私たちを救うため、ご自身の最愛の独り子であるイエス・キリストを与えられたのです。そのイエス・キリストは、神の子でありながら、私たちと同じ人間として地上を歩み、十字架で死なれました。なぜでしょうか。それは、私たち人間を救うためでした。私たちの罪を赦し、永遠の命を与えるために、神ご自身の命が犠牲になったのです。

「人とは何ものなのでしょう」。ダビデの問いは、今日の私たちにも響きます。月や星を創造され、その指先で宇宙を据えられた神の独り子が、極めて小さな私たち一人ひとりのために、命をかけて死なれました。いったい誰に、それだけの価値があるのでしょうか。しかし事実、「何もの」でもない私たちに、神からの素晴らしい救いが、差し出されているのです。

寒い二月の夜、皆さんも星空を見上げてはいかがでしょうか。その圧倒的な美しさと雄大さの前で、自分の小ささを感じます。それにもかかわらず、夜空に見える無数の星々を創造された神は、あなたのことを「心に留め」、あなたを「顧み」、あなたを救いに招いておられるのです。(H)

